

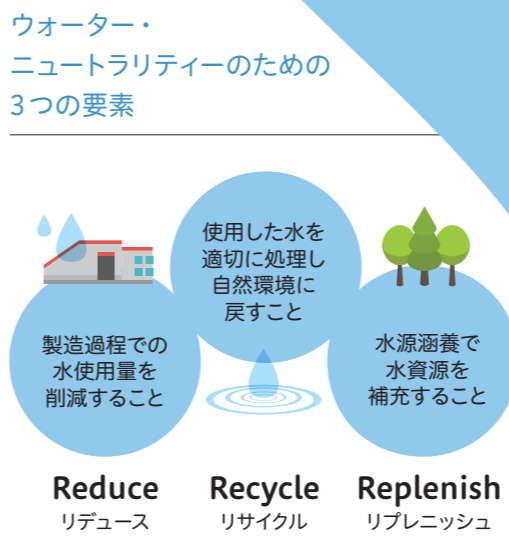
1 環境を 豊かな未来につなぐ

北海道のきれいな水を、 次世代につないでいくために。

すべてのいのちにとって、水はかけがえのない存在。
私たちの製品づくりにも良質な水が欠かせません。
北海道のきれいな水を未来へとつないでいくことは、私たちに課せられた使命でもあります。

使った量と同量の水を還元
ウォーター・ニュートラリティーを
目指して

当社の製品は、北海道の豊かな大地に育まれた良質な地下水を使
つてつくられています。「ウォーター・ニュートラリティー (Water
Neutrality)」とは、こうした製品づくりの過程で使った量
と同じ量の水を、自然に還元するという考え方です。
コココーラシステムでは「2020年までに水資源の持続可能性
におけるグローバルリーダーになる」という世界共通の目標を掲げ、
製造過程における水使用量削減「リデュース (Reduce)」、製造
過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」、地域の水源
保護「リプレニッシュ (Replenish)」の三つの要素でウォー
ター・ニュートラリティーの達成を目指しています。
当社の具体的な取り組みとしては、札幌工場で使用している地下
水の水源である白旗山(札幌市清田区)の森づくりから、自然にや
さしい排水処理、製造工程での節水、子どもたちへの環境教育など、
さまざまです。
工場の中から地域の自然まで活
動の輪が広がっています。



コココーラ「森に学ぼう」プロジェクト

体験型の環境教育プログラムを實踐
コココーラシステムでは、植樹や自然体
験を通じて子どもたちに「森」と「水」の大切
さを学んでもらうことを目的に、2006年
から「コココーラ」森に学ぼう」プロジェ
クトを実施しています。

当社では2011年に札幌市と締結し
た「環境事業に関する協定」に基づき、札幌
工場を使う地下水の水源である白旗山
で、札幌市森林組合や市民団体と連携した
森づくりをスタート。「コココーラ」森に学
ぼう」プロジェクト「わくわく体験
ランド北海道in白旗山」と
題し、子どもたちとの植樹、
湧水の観察、間伐材を用い
た木工クラフト体験など
を毎年行っています。
2016年は約30
名の子どもたちと一緒に
150本のミズナラ
(ドングリ)の苗木を植
えました。



「山のがっこう」

2013年、北海道における環境保全・地
域社会の発展に寄与することを目的に、北
海道大学大学院環境科学院と連携・協力協
定を締結し、白旗山をはじめとする北海道
の自然を、教育・研究を通じ次世代へつな
げるという目的で開校したのが「山のがっ
こ」です。
小学生から高校生までを対象に白旗山で
のフィールドワークや、水の循環について科
学的な側面から学ぶプログラムを北海道大
学大学院の学生が中心となって実施してい
ます。実施にあたっては地域の関係者と連
携しながら産学官の協働を実現。伝える側
の大学院生、受け取る側の子どもたち、双
方の学びを目指しています。

2016年は小学生を対象に山のろ過
機能や植樹の意味を、高校生を対象に安定
同位体の比較や地下水の仕組みなど、対
年齢に合った水環境の授
業を行いました。

Replenish

水の使用量を大幅に削減 エレクトロン・ビーム 殺菌

2012年より、PETボトル製品の製
造ラインで、エレクトロン・ビーム(電子線)
殺菌方式を採用しています。薬剤でのPET
ボトル洗浄に比
べ、電子線を使っ
て殺菌すること
で、ボトル洗浄水
の使用量を大幅
に節水すること
に成功しました。



自然にやさしい排水処理 ラグーン処理方式

札幌工場の排水処理は、微生物の自己淨
化サイクルを利用し、余剰汚泥の発生量を抑
える「ラグーン処理方式」(※)です。国の排水
基準を遵守するのはもちろん、その基準を上
回る独自の基準を適用しています。

Recycle

コラム COLUMN

北海道の良質な資源と
大地の恵みをお届けします



札幌工
場で製造し
ている製品
はすべて、
白旗山を
水源とする
地下水でつ
くられています。山に
降り注いだ雨や雪が大地に浸
透し、長い年月をかけてろ過され
ることで不純物がとりのぞかれ
た水。それをPETボトルに詰
めたのが良質なナチュラルミネ
ラルウォーター「い・ろ・は・す」
です。
また、道内で製造・販売してい
るコーヒーなどの諸製品には、
北海道産の砂糖や乳、生クリーム
を使用するなど、地産地消を推進
しています。

※ラグーン処理方式

微生物が有機物を食べ、
水と二酸化炭素に分解します。



左から「い・ろ・は・す」555ml、
北海道限定の「い・ろ・は・す」ハスカップ
555mlと
「ジョージア ミルクコーヒー」247g



2016年度
「北海道e-水プロジェクト」活動の様子

1 環境を豊かに未来につなぐ

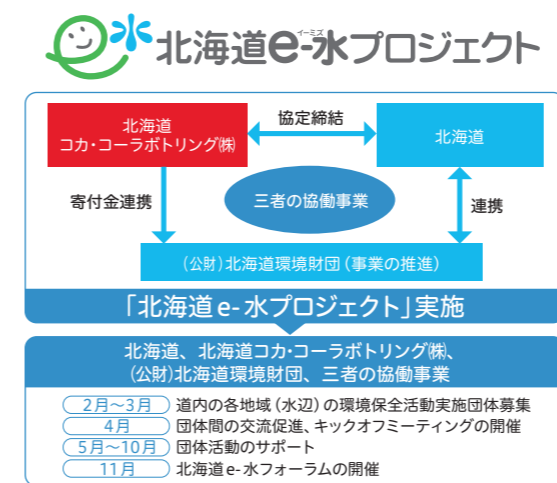


2016年度 北海道e-水フォーラム
(寄付額累計1億円突破)

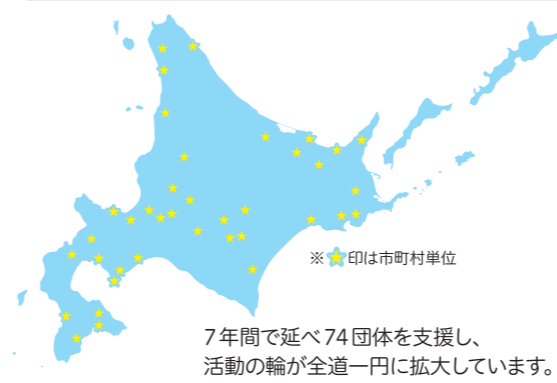
寄付額累計1億円
北海道の環境を守るあなたの1本
北海道e-水プロジェクト
2010年から北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で行っている「北海道e-水プロジェクト」。北海道の豊かな水資源と美しい自然環境を守り、次世代へ引き継いでいくことを目的としています。
この事業は、当社が北海道限定で販売する「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインの一部を同財団に寄付。同財団が北海道の水辺の環境保全活動に取り組みする団体や、活動費を支援する仕組みです。これまで7年間で延べ74団体を助成し、「北海道e-水プロジェクト」

の前身となる、2008年から開始された北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を合わせると、9年間で1億円を突破しました。
2016年は8団体を支援し、4月には助成団体を集めたキックオフミーティングを開催。11月には活動内容を広く発信する場として「北海道e-水フォーラム」を開催し、2016年度の寄付額として約880万円を寄付しました。全道の環境保全に取り組みする団体が増え、交流するきっかけづくりになっているほか、全道各地で行われている保全活動には当社社員も参加して、地域の皆さまと絆を深めています。
地域の水辺の環境を守るお手伝いがしたい。「北海道e-水プロジェクト」は、こうした当社の思いを象徴する取り組みになっています。

「北海道e-水プロジェクト」の仕組み



「北海道e-水プロジェクト」歴代支援団体所在地



「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン



1993年発売のロングセラー商品。乳や砂糖は北海道産を使用し、パッケージには大沼、釧路湿原、大雪山、十勝平野と北海道の雄大な風景を採用しています。

北海道が誇る貴重な自然を守りたい 知床世界自然遺産への寄付

2005年、知床が世界自然遺産に登録されたことをきっかけに、希少な動植物の生息地となっている知床の環境保全活動に役立ててもらおうことを目的として、「知床応援自動販売機」を展開しています。斜里町では2006年から、羅臼町では2007年から取り組みを開始し、2016年は合わせて約110万円を寄付し、これまでに累計1,223万円が両町の知床世界自然遺産における環境保全活動に役立てられています。



知床応援自動販売機

廃校を宿泊型体験施設に再生 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

栗山町にある「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団と栗山町が協力し、廃校となっていた雨煙別小学校の校舎を宿泊型体験施設として再生したものです。
夕張川やハサンベツの里山など栗山町の自然とふれあう、さまざまな体験プログラムを用意しており、子どもたちの体験学習などに利用されています。
また、毎年夏休みには、環境ボランティア活動に携わる子どもたちが全国から集まって交流する「コカ・コーラ環境フォーラム」が開催されるほか、さまざまな環境イベントに活用されています。



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

環境への取り組みを紹介 環境イベントへの参加

当社の環境への取り組みを多くの方に知っていただくため、環境イベントへ積極的に参加しています。道内最大級の環境イベント「環境広場さっぽろ」をはじめ、札幌市青少年科学館「環境科学展」(はこだてエコフェスタ)など、各地の催しに出展。パネル展示や、環境クイズなど参加型の企画も行っています。



「環境広場さっぽろ」への出展

水の循環を楽しく学べる 環境出張授業 「水の授業」を実施

次世代の、地球環境保全を担う子どもたちに水資源の大切さについて楽しく学んでもらうため、環境出張授業「水の授業」を行っています。
これまで道内各地の環境イベントで開催したほか、札幌市内の学校などでも実施し、2016年は約750人が参加しました。



環境出張授業「水の授業」

社員の声 VOICE

当社だからこそできる
環境授業を目指して



広報・CSR推進部
広報・CSR推進課
藤井 朋子

当社の工場は札幌市清田区にあり、大地が育んだ良質な地下水を利用して製品を製造しています。だからこそ、その「水」を育む「森」を守ることが私たちの責務だと考えており、「自然への恩返し」の気持ちで、水資源保全活動に取り組んでいます。

私たちが実施している「水の授業」は、水の飲み比べや環境クイズなどを通じて、身近な「水」について興味を持ってもらい、さらに、当社の「水源を守り、水を大切に使い、しっかりと浄化して自然に返す」というウォーター・ニュートラリティーの活動を紹介することで、生活に使用できる「水」の希少さ、「森」と「水」のつながりを伝えていきます。

この活動を通じて、次世代へ環境保全の輪を広げていくことを目指し、これからも継続して活動していきます。